

リハビリテーション部臨床心理室

公認心理師 主任 和田 寿美

はじめに

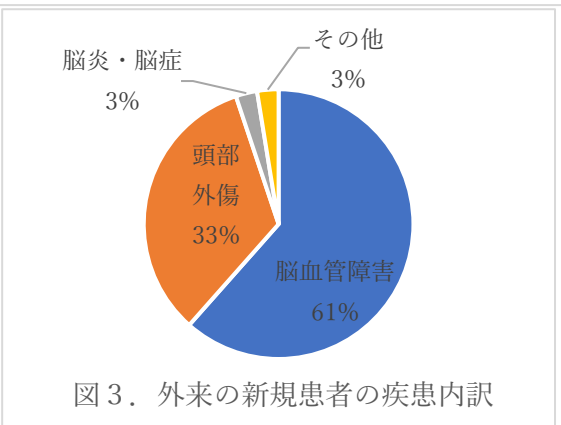
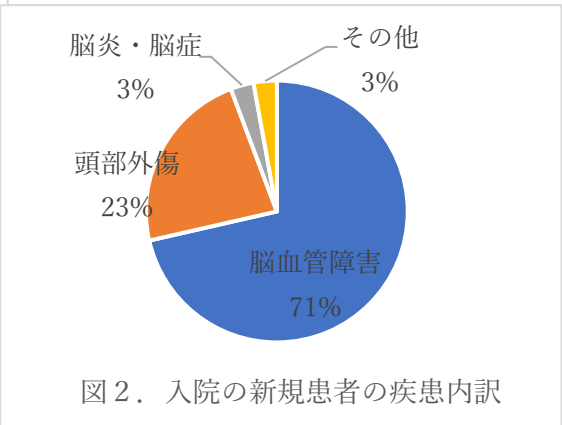
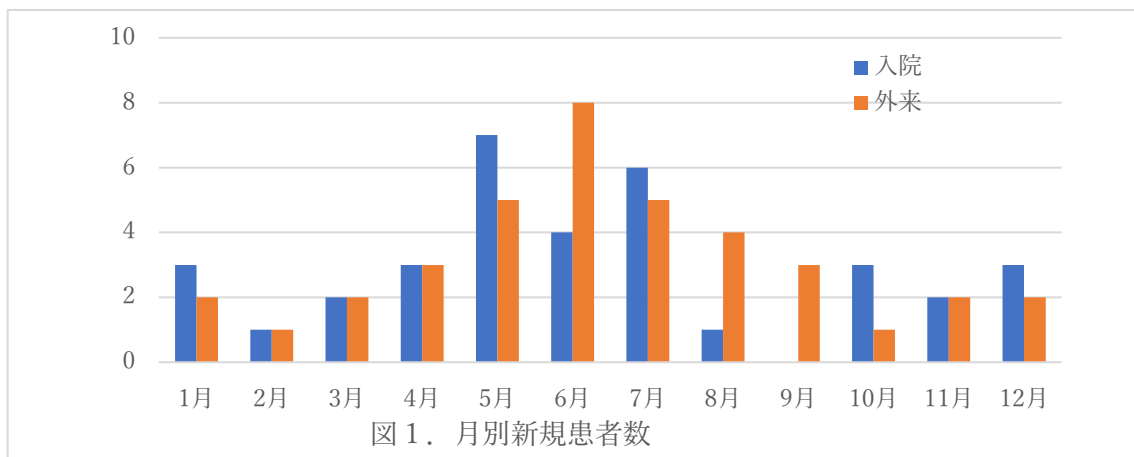
リハビリテーション部臨床心理室は、常勤の公認心理師 2 名体制でした。回復期リハビリテーション病棟 7 ユニットの入院への対応が 1 名、外来対応が 0.5 名、高知県からの委託事業である高次脳機能障害支援拠点センター青い空への対応が 0.5 名と業務分担しています。

実績について

○近森リハビリテーション病院

図 1 では、2024 年の月別の新規患者数を示します。新規依頼は、その時々患者層の変化に影響を受けるので、月によってばらつきがあります。新規患者数は入院、外来共に前年より 2 割増加でした。

新規依頼の患者について、図 2 では入院 35 名、図 3 では外来 39 名の疾患内訳を示します。

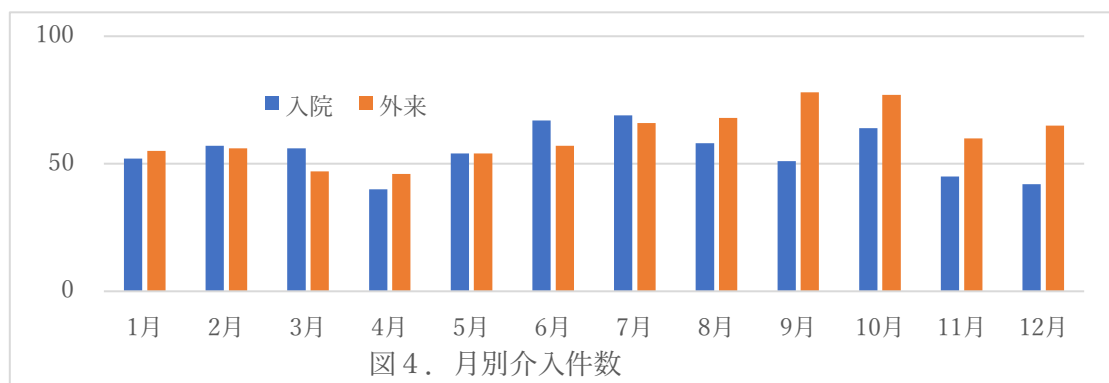


月別介入件数は、図 4 の通り。1 ヶ月平均では、入院が 55 件(実人数 8 名)で前年同様、外来は 61 件(実人数 28 名)と前年より 1 割増でした。

入院では、複数ユニット対応のため指示が出てから担当者側で調整することもありました。抑うつ状態や、職場復帰など将来への不安感への対応（心理面接）を中心とした介入が増えています。前年に比べるとコロナ感染による介入制限や患者・家族間での面会制限が緩和されましたが、

家族と会えない寂しさや入院生活でのストレス反応は多く聞かれます。家族面談や担当者会では、患者の高次脳機能障害や退院後の生活について、家族や支援者と情報共有する貴重な機会です。院内外での情報交換の場では、患者の高次脳機能障害はもとより精神心理面について理解しやすさを意識してきました。

外来では、高次脳機能障害の状態評価の一方で、心理面接で患者が自分自身の理解を深めることを目指します。精神障害者保健福祉手帳や障害年金の申請の支援、学業や職業への復帰或いは就労など適応への支援を行います。



○高知県高次脳機能障害支援拠点センター 青い空

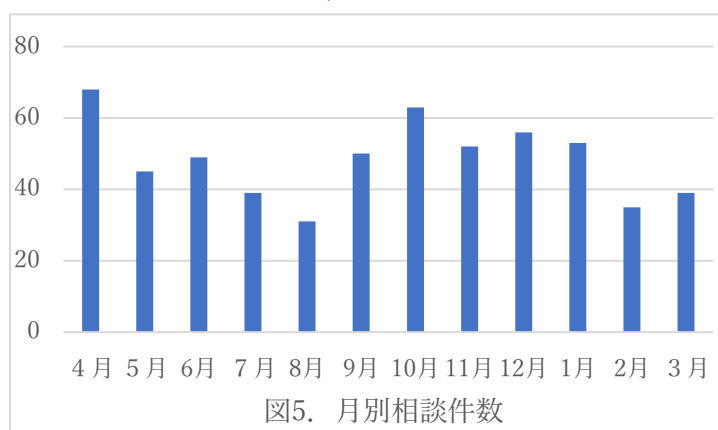
高知県内の高次脳機能障害に関する相談支援と普及啓発事業に取り組んでいます。

図5に2024年4～2025年3月の相談支援の実績を示します。相談対象者は、当事者、家族、支援者となります。

相談方法として電話対応が最も多いですが、メールや来所、訪問、担当者会への参加も行っています。当事者、家族が孤立しないよう当事者・家族会の開催にも協力しています。

人口分布からして高知市内からの相談が最も多いのですが、安芸や幡多地域からの相談が少ないこと、児童に関する相談が少ないというのが課題です。研修開催や相談支援の積み重ねによって、相談しやすい機関となるよう努めていきます。

※（公財）日本障害者リハビリテーション協会の発行誌『新ノーマライゼーション』3,7,11月号に掲載された3名の当事者の体験記事（暮らしのヒント）への執筆を協力しました。



まとめ

心理職として、患者、家族への配慮のため空間を限定して関わることも多いのですが、患者及び家族の回復と適応について、多職種となる支援者が理解しやすい工夫(情報や伝達の仕方など)をしていきたいと考えます。その為にも患者、家族、多職種との繋がりを深め、信頼関係の構築に励みます。

院内外での研修会、勉強会への参加、学会発表など、これまで以上に励みます。